

講座紹介

数学	基礎コース (分野別)	講義	・該当分野未習の人 ・不安があるので学びなおしたい人を対象としてヴェリタス流に1から講義するコース	P.1
		演習	・該当分野既習の人 を対象として問題演習を行うコース (既習内容の確認の為、申込前に講師との面談をお勧めします)	P.2
	受験コース	今年度大学受験をする人の為のコース		P.3
理科	受験コース	今年度大学受験をする人の為のコース		P.4
国語	受験コース	今年度大学受験をする人の為のコース (意欲ある新高二生の参加も可)		P.5
英語	基礎コース	初級	文法を学んでいる途中である新中二～新高一生向けのコース	P.6
		中級	文法全範囲既習の人の為のコース	P.7
		上級	発展的な英語学習をしたい人の為のコース	P.8
	受験コース	今年度大学受験をする人の為のコース (意欲ある新高二生の参加も可)		P.9,10

- 新中1生の講座は別途ご請求ください (3月より通常授業を行います).

のついている講座は通常授業を受講していない外部生におすすめの講座です.

数学分野別講義コース

< 該当分野 未習 を前提として、一から講義するコースです。 >

講座名 /期間 /クラス名	分野	内容紹介
初等幾何 講義 第2ターム6限 [定員間近] Field2 集中授業-1	数 A	三角形の五心（重心，内心，外心，垂心，傍心），チェバ・メネラウスの定理，方べきの定理を中心に，すべての図形問題の核をなす「円と三角形」について重要な基礎事項を講義してゆきます。答ええ求めればよいという姿勢ではなく，その図形が内包するものを探り，定理の背景となる図形構造をとらえてもらうことに重点をおきます。予備知識は必要ありません。
写像と軌跡 第4ターム2限 Hybrid Field A 集中授業-2	数 II 数 B	「ベクトル，図形と式」の基礎を終えた人を対象として，「そもそも方程式で図形を表すとはどのようなことなのか？」「パラメータで表すこととどのように異なるのか？」から出発し，パラメータ自身の司る図形量を明らかにすることで，軌跡・領域という分野の基本を押さええます。 後半は，「順像」「逆像」という言葉をキーワードに，いかにして写像の値域を求めるかを研究します。最終的には，高校数学に登場する様々な写像の特徴・構造をとらえてもらうことが目的です。
写像と軌跡の基礎 第4ターム3限 Hybrid Field B 集中授業-2	数 II 数 B	「ベクトル」の基礎を終えた人を対象として，座標を用いて図形の性質を考える分野である「図形と方程式」を扱います。図形を方程式で表すこと，パラメータで表すことのそれぞれの意味をはっきりさせることから始め，軌跡・領域という分野の基礎を固めます。 後半では，高校数学に登場する写像を例に，写像の値域を求める手法である「順像法」「逆像法」の土台となる考え方を扱います。
複素平面 講義 第4ターム1,2限 [定員間近] 数 III 速習集中授業-2,3	数 □	「複素平面」未修者を対象に，5日間で複素平面の全範囲を講義・演習する講座です。この講座1つで基礎レベルから入試問題レベルまですべてを網羅するので，新高3理系で複素平面未修の人は必須です。複素数を平面上の点と同一視することから始め，前半では複素数の四則演算に図形的解釈を与えることで初等幾何の様々な問題を複素数を用いて解決していきます。後半には，反転について時間をかけて講義・演習し，最後に一次分変換を扱います。
二次曲線 講義 第2ターム5限 [定員間近] 数 III 速習集中授業-1	数 □	「二次曲線」未修者を対象に，5日間で二次曲線の全範囲を講義・演習する講座です。この講座1つで二次曲線のすべてを網羅するので，新高3理系で二次曲線未修の人は必須の講座です。 「放物線」「楕円」「双曲線」のそれぞれを，「2焦点からの距離による定義」「焦点と準線からの距離の比による定義」に基づいて自由に立式できるようになることから始め，「円錐の切り口」「極座標表示」を扱い，最終的には，標準入試問題の演習まで行います。

■ 参考資料 — その他の講習で分野別講義を受けることのできる分野一覧

講座名	教科書の対応
夏期講習（8月）	
「初等幾何 講義」	数 A
「論理の利用 講義」	数 I, 数 A
「確率 講義」	数 A
「数 II 微積分 講義」	数 II
「写像と軌跡 講義」	数 II, 数 B
「二次曲線 講義」	数 III
冬期講習（12月）	
「確率 講義」	数 A

* その他，「整式」「指数・対数関数」「三角関数」「数列」「ベクトル」「数 III 微積分」等の講義を受講したい場合は，通常授業を受講してください（p.3 参照）。

* あくまで予定のため，開講されないこともあります。予めご了承ください。

数学分野別演習コース

<該当分野の基礎が 既習 であることを前提として、問題演習を行うコースです。>

講座名 /期間 /クラス名	分野	内容紹介
中学数学総復習 □,□ □ 第1ターム6限変則 [定員間近] 3/16,17休講、3/20,21補講 □ 第3ターム3限変則 [定員間近] 3/27休講、3/30補講 Field1 集中授業-1,2	中学 数学	中学数学を一通り終えた段階の人を対象に、標準～やや難レベルの問題を中心に演習を行います。授業の最初に基礎知識の確認を行い、その後テスト、解説と続き、類題を宿題として課すという形態になります。中学数学の重要なトピックスをすべて確認・定着し、高校数学へのスムーズな橋渡しを行うことがこの講座の目的です。□の方が難易度の高い問題を扱います(□,□どちらか一方のみの受講も可能です)。
数Ⅰ・数A 上級演習 -同値変形の技術- 第4ターム1限 Field3 集中授業-2	数Ⅰ 数A	「整式の扱い」「2次式とその周辺」「高次方程式・不等式」「絶対不等式」「論理・集合」を題材としたやや難レベルの問題演習を通じて、今後難問にアプローチする際必ず必要となる、「同値変形による解答作成の技術」を身に付けてもらいます。答えを求められればよいという、いずれ限界の来る勉強法に、早い時期に終止符を打つことを目的とします(難易度の高い講座のため、受講には担当講師との面談が必要です)。
場合の数・確率 基礎演習 第3ターム1限 Field3 集中授業-1	数A	「場合の数」「確率」を一通り終えた人を対象に、具体的で日常に密着した問題を pick up して演習を行います。 場合の数であれ確率であれ、基本は"数える"という行為からはじまります。"数える"ということは、一見簡単にきこえますが、 <ul style="list-style-type: none"> ・自分にとってわかりやすいように分類する ・何らかの意味付けを行う(言葉への変換) ・対応する知っているものをみつける ・実験し法則性を見出し一般化する など、抽象的思考の基本となるものです。高校で扱う数学の中では最も日常(具象)との接点があり、その上、抽象とも接点をもつこの分野を楽しみながら身に付けましょう。
三角関数・数列 基礎演習 第3ターム5限 Field2 集中授業-2	数□ 数B	三角関数・数列を一通り終えた人を対象に、様々な問題演習を通して、初等関数・離散関数の理解を深めることを目的とする講座です。 「なぜ、このような概念が必要なのか?」「なぜ、このようにすると解けるのか」を常に考えながら問題演習を行い、やり方を覚えるのではなく、解法に至るまでの自然な頭の流れを養成します。
数Ⅱ微積分 基礎演習 第3ターム5限 [定員間近] Hybrid Field B 集中授業-1	数□	「数Ⅱの微積分」を一通り終えた人を対象に、3次関数のグラフの性質から求積にいたるまで、基本～標準問題を網羅した演習を行います。自分一人の力で解ききれることを目的とするので、授業内演習の時間をたっぷりとりとります。
数Ⅱ微積分 上級演習 第1ターム5限 [定員間近] Hybrid Field A 集中授業-1	数□	初日に微積分全体の基礎事項の確認、及び基本問題15題の解説を行い、2日目以降「関数方程式」「物理的問題への応用」「様々な分割による求積」「2変数関数の微積分」の講義、及び演習を行います。かなりハードな講座となるでしょうが、より深い内容をより分かりやすく解説し、少しでも微積分のイメージを広げてもらえればと思っています(難易度の高い講座のため、受講には担当講師との面談が必要です)。

のついている講座は通常授業を受講していない外部生におすすめの講座です。

数学受験コース

< 実戦的な入試演習を行うコースです。 >

講座名 /期間 /クラス名	分野 レベル	内容紹介
近似と微積分 第1ターム6限 U1,U2 集中授業-1	数 □	扱う関数の範囲は数Ⅱですが、数Ⅱ・Ⅲを問わず微積分の基礎となる「微小量」という概念を軸に、これまで公式として与えられてきた式の意味を一つずつ見直すことで、微積分についての体系的な理解を得ることを目指します。「微小量」という概念を知った途端、それまで単なる記号に過ぎなかった dy や dx がいきいきと動き出し、微積分が具体的なイメージを持って理解されるはずで す。 微積分の計算はできてもその意味がよく分からない、ちょっと難しくなるとどう解いて良いかわからないという人に最適の講座です。
大学入試基本演習補遺 -1,2月 U3,4 ダイジェスト- 第1ターム6限 [定員間近] U3,U4 集中授業-1	数Ⅰ,A 数Ⅱ,B	1,2月で扱った論理・式の見方の総復習を行います。すべての問題に対して、十分な時間をかけて予習をすることが前提です。授業内で復習を終わらせるつもりで、受講に臨んで欲しいと思っています。 聞いてわかることと自らの力で解けることには大きなギャップがあります。そのギャップを埋めるには、安易に答えを見るのではなく、適切なレベルの良問に対して脳に汗をかきながら考え続けることしかありません。この3月で標準的な入試問題はすべて一人で解けるようになります。そして4月以降、やや難～難レベルの問題に対して、アプローチできる余裕をもてるようにすることが目的です(外部生の受講には担当講師との面談が必要です)。
数Ⅲ 分野別総整理 第4ターム3,4限 [定員間近] U1,U2,U3,U4 理系集中授業-2,3B	数 □	数Ⅲについて一通りは学んだが、まだ入試問題を解くには不安があるという人を対象として、数Ⅲ全分野にわたって、「概念」「定義」「定理」「基本手法」を演習を通じて整理・確認する講座です。4月以降、標準～やや難の入試問題に自らアプローチできるようにするためのベースをつくることを目的とします。 扱う問題は、数Ⅲの全範囲について基礎事項の確認を行えるよう配慮しセレクトします。また、入試問題を解くために必要な手法は、例題を交えてすべて講義します。
数Ⅲ 大学入試基本演習 テストゼミ 第4ターム3,4限 F4 集中授業-1,2 U1,U2,U3,U4 理系集中授業-2,3A	数 □	数Ⅲについて、ある程度自信のある人を対象として、実践的なテストゼミを行う講座です。90分5問のテスト後、解説という形態をとります。テストは添削して翌日返却します。 典型問題からやや高度な問題を含む25問を通じて、理系範囲について問題の構造を把握し、より深い理解を養成します(外部生の受講には担当講師との面談が必要です)。

■複素平面・二次曲線を一から学びたい人は、分野別講義コースの複素平面・二次曲線の講座紹介をご覧ください。

理科受験コース

< 来年大学受験する人を対象としています。 >

	講座名 /期間 /クラス名	内容紹介
物理	エネルギーと角運動量 第2ターム6限,第3ターム6限 [定員間近] 第3ターム3,4限 [定員間近] どちらのコマも同内容です 物理 1,2 組集中授業-1,2	今まで運動方程式の「外力の作用が速度変化を生む」という観点を利用して運動を解析してきました。これに対し、本講習では運動エネルギーおよび角運動量という量を導入した上で、同様に運動を解析していきます。この講座では、これらの量が時間に依存しないという新しい形の法則（狭義保存則）を習熟することと、運動方程式から派生したこの保存則がどのような状況において運動方程式よりも便利なのかを整理することの二点を目標とします。また、円運動や剛体の運動などのテーマについても扱い、これにて力学全範囲の講義は一通り完了となります（既習範囲の確認の為、外部生の受講には担当講師との面談が必要です）。
化学	化学平衡と酸化還元 第3ターム1,2限 [定員間近] 化学 1,2 組集中授業-1,2	反応速度、化学平衡、酸・塩基、酸化還元、電池・電気分解の各分野の講義および演習を行います。これらの分野は入試において好んで出題され、ほんの少しの理解度の違いが得点に大きく差がつく分野です。単なる公式の暗記にとどまらず、頭の中で描いた分子モデルを自分で動かすことによって、マクロな現象をミクロな視点から理解し、自分で説明できるようにすることを第一の目標とします（外部生の受講には担当講師との面談が必要です）。
生物	総論的入試問題演習 -物質と細胞- 第4ターム6限 生物集中授業	生物は、多くの知識の寄せ集めで、丸暗記にならざるを得ないという意識を払拭してもらうための講座です。生物という科目は、基礎となる構造をつかめば、一見まとまりのない知識に対しても、つながりから理論的な考察が可能になる科目です。 本講座では、各回の冒頭に30分2問のテストを行い、その後各問題において問われていること並びにその背景にある生命現象の基礎構造の解説を行います。扱う問題は、生体を構成する物質、「代謝」、「細胞分裂」、「転写・発現」、「遺伝」、「発生」、「進化」、「物質循環」といった、生物学全般にわたる理論の骨格を成す分野です。ただの知識ではなく、有機的につながった知識に変化させ、それと同時に、添削を通じて、(1)自力で理論を展開する力、(2)その理論を限られた文字数の中で文章化する力を付けていきます（丁寧に添削指導します）。みなさん一人ひとりに今後1年間の勉強方針の提示を行うことが本講座の目的です。

のついている講座は通常授業を受講していない外部生におすすめの講座です。

■ 参考資料 ー理科・分野別取り扱い時期

物理	分野	時期
	力学	1-3月
	熱学	4月
	電磁気学	5-7月
	波動	8月
	原子	8月

化学	分野	時期
	理論	1-3月
	無機	4-5月
	有機	6-7月

生物	分野	時期
	総論	1-3月
	各論	4-7月

国語受験コース

< 来年大学受験をする人を対象としています。(意欲ある新高2生の参加も可) >

講座名 /期間 /クラス名	ジャンル	内容紹介
現代文読解の方法 第3ターム6限 現代文集中授業	現代文	<p>現代文で一番困るのは「何となくわかるけど、点数が取れない」ということです。しかも、何となくはできるために対策を怠り、最後まで点数がのびない教科になってしまいます。できない原因は二つ。「問題文を何となくしかわかっていない(正確に読んでいない)」こと、さらに「設問の要求と解答がズレている」こと。相手を誤って理解し、その要求と違うものを渡しても、喜ばれないのと同じです。</p> <p>授業ではこの二点にポイントを絞ります。文章を正確に読む方法と設問のニーズに応じた解答の作り方を学び、「何となく」という現代文の落とし穴を脱出することがこの講座の目的です。</p>
古典読解基礎講義 -文法の最適な使い方- 第3ターム3限 古典集中授業	古文 漢文	<p>古文・漢文はそもそも現代語と地続きの日本語なので、感覚的に読める部分も多くあります。しかし、現代と時間的に隔たっている以上、感覚だけでは正確に読めないのが現状でしょう。もちろん、文法を丸暗記してひたすら文章を分析していけば、読むことは可能になりますが、それでは時間がかかって仕方がありません。古典読解への近道は、現代語とは異なる部分に重点を置いて文法を理解し、それを適切に用いていくことです。</p> <p>まずは、文章を読む際につまずく原因となる箇所にポイントを絞り、現代語の感覚では補いきれない文法や読むためのルールを手に入れます。そして、得られた知識を、要領良く最適な方法で用いることを確認していきます。必要最小限の文法で文章を正確に読み解く方法を身に付けることが、本講座の目的です(最低限の文法知識を前提とするため、受講希望の場合は担当講師との面談が必要です)。</p>

のついている講座は通常授業を受講していない外部生におすすめの講座です。

英語基礎コース初級

< 新中2～新高1生を対象とする講座です。 >

講座名 /期間 /クラス名	主な 学年	内容紹介
中学英語総演習 α -文法編- 第3ターム2限変則 3/27 休講,3/30 補講 Level1 集中授業-2	新 中2 ~ 中3	中学英文法を一通り学び終えた人を対象に、中学英文法の総復習を行います。動詞の時制・助動詞・受動態・関係詞・不定詞など、重要な文法事項に焦点を当てつつ、すべての文法分野をおさらいします。授業は①文法事項の確認、②英作文演習、③長文問題解説の3つのパートから構成されます。うち、②英作文演習では、毎回約50題近くの和文を英訳し、各分野の英文構造を完全に頭に定着させます。本講座は、「考えてできる」初歩的なレベルから、「見ただけで英文が勝手に出てくる」より高度なレベルにまで英語の <i>familiarity</i> を強め、文字通り英語を「身に付ける」ことを目的とします。
中学英語総演習 β -英会話・読解編- 第1ターム5限 3/18 休講,3/20 補講 Level1 集中授業-1	新 中2 ~ 中3	英検3級程度リスニング演習と中学英文法の知識のレベルで十分に読める英文の読解演習を行います。前半のリスニング演習では、ネイティブの発音に慣れ、「目」で培ってきた英語力を「耳」へと応用することを目的とします。さらに、日常の英会話で使える表現をピックアップして、さらに「口」へと応用しましょう。後半の読解では、比較的長めの英文を通じて、自ら英文を読み切ることができる楽しさを体験してもらうことを目的とします。リスニング・読解の両方を楽しく学習することで、自らが、英語を「書く」ばかりでなく「読み、話し、聞くことができる」一人前の <i>English User</i> であることが実感できるでしょう（長文問題が毎日一問ずつ宿題となります）。
総合演習による 重要文法項目の定着 第2ターム5限 [定員間近] Level2 集中授業-1 Intensive Level2 集中授業-1	新 中3 ~ 高1	先行学習により基本的な高校英文法を見渡した中学生を対象に、とりわけ高度な文法事項に焦点をあてて、演習を行います。具体的な焦点とは、①基本五文型、②関係詞、③準動詞、④時制と話法、⑤仮定法の5つです。授業は、①要点の確認、②英作文演習、③長文問題解説の三部構成で（③は自宅で問題を解いてくるのが前提されます）、どのパートもその日の文法事項にテーマを絞って解説を行います。取り上げる5分野は、あらゆる英文読解に絶対必須の重要事項です。きたるべき応用学年への準備として基礎固めをし、知識を定着させたい中学生に最適の講座です。
構文入門講義 -長文読解の指針- 第3ターム4限 [定員間近] Level2 集中授業-2	新 中3 ~ 高1	先行学習により、基本的な高校英文法を見渡した中学生を対象に、構文の入門講義を行います。一見さまざまなヴァリエーションをもつかに見える複雑な英文は、実はごくごく限られた単純な文法「構造」に解体、還元することができます。そうした「構造」の代表は何と言っても基本五文型ですが、その他にも、動詞と前置詞の相関関係、接続詞と副詞の呼応関係など、さまざまなパターンがこの「構造」に含まれます。そうした英語の核とも言える「構造」に焦点を当てて、英文法を鳥瞰してみようというのが、本講座の目的です。したがって、本講座は個々の文法事項の確認に比重をおきませんが、英文全体に通底する基本原理を学ぶことで、中高英文法の基本を全体的にみわたす機会となります。今後の複雑な英文読解の明確な指針を手にししましょう。

のついている講座は通常授業を受講していない外部生におすすめの講座です。

英語基礎コース中級

<文法全範囲の既習が前提となります。主に新高2生を対象とする講座です。

(意欲ある新高1生の参加も可) >

講座名	/期間 /クラス名	レベル	内容紹介
文法・作文部門	構文総演習 第3ターム2限 [定員間近] Level3 集中授業-1 Intensive Level3 集中授業-1		<p>高校英文法既習者を対象に、読解に必要不可欠な構文の演習を行います。特に、①時制、②原因・理由、目的、結果、③条件、仮定、④譲歩、⑤その他の重要構文を取り上げます。授業は、ジャンル別英作文という形式を採用し、ひとつの意味表現に対して、いくつもの言い換えを行い、分野にまたがる文法の横断的理解を確認します。たとえば「～するとすぐに」という意味表現のためには、on Ving (動名詞), the moment SV (接続詞), no sooner had S V than SV (比較)といった多岐にわたる表現型を用いることが可能ですが、このように1つの意味表現と複数の対応表現を学習していくことで、それまで断片的に散逸していた英文法の知識を有機的につなぎ合わせ、英語理解のための強固な織目を編み上げていきます。</p> <p>授業は、1. あらかじめ用意してもらった各人の英作文を検討し、主要構文の総合チェックを行ない、2. 主要構文が含まれる高度な短文和訳の演習を行ない、その場で解説していきます。基礎から応用、応用から本格へとレベルアップするために、いずれ劣らぬ珠玉の問題を精選し、より実践的な理解力を深めていきます(毎日回収される各人の答えは、講師が添削し批評を加えたうえで、その後返却します)。</p>
読解・速読部門	速読入門 第4ターム1限変則 [定員間近] 4/3 休講,3/30 補講 Intensive-Level2 集中授業-2 Intensive-Level3 集中授業-2 第4ターム2限 [定員間近] Level3 集中授業-2	+α	<p>高校英文法既習者を対象に、速読力を身につけるための応用力を養成する講座です。正確に文の構造がとれるという段階に達した人には、より実践的な課題として「正確かつ速く読む」ことが要求されます。本講座では、スラッシュ・リーディングの手法を用いた目の動かし方に加え、パラグラフ・リーディングの手法を用いた大意要約の仕方を習得します。授業構成は、第1日スラッシュ・リーディングの手法、第2日パラグラフ・リーディングの手法を概説した後、第3日以降、実践演習に移ります。実践演習では、会話文(第3日)、随筆文(第4日)、論説文(第5日)とテーマを絞り、スラッシュ・リーディングだけで読めるレベル(会話文)から、パラグラフ・リーディングを併用せねば読めないレベル(論説文)への漸次的移行を図ります。英文読解を通じて、国語力という副産物も得られることが実感されるでしょう。</p>

のついている講座は通常授業を受講していない外部生におすすめの講座です。

英語基礎コース上級

<文法全範囲の既習が前提となります。

進んだ学習をしている新高2生を対象とする講座です。>

講座名	/期間 /クラス名	レベル	内容紹介
文法・作文部門	和文英訳演習上級 -評論編- 第3ターム4限 [定員間近] Level4 集中授業-1	+α	発展的英語構文を習得し、かつ、豊富な英語表現を身につけた生徒を対象に、難解な和文英訳の訓練を行います。通例和訳問題として出題されるような文章を、本講座では逆に英作問題として扱います。授業は2パートからなり、前半では、諸構文・諸表現を網羅し、後半の英訳のための下地を整えます。後半では、我が国の著名な評論家（夏目漱石、小林秀雄等）による文章を英訳してもらいます。脳内の知識の武器庫から、必要に応じて武器を援用する、文字通り「実戦」演習です。これまでに培った構文力、知識をフル稼働させて、自由に、美しく、力強く、英作文をしてください。もはや「英作」ではなく「翻訳」です。皆さんの翻訳文は、翌日講師が添削の上、返却します。夏期集中授業では、-小説編-を行います。
読解・速読部門	前置詞の感覚 第1ターム6限 [定員間近] Level4 集中授業-2		前置詞についてネイティブがもっている感覚を身につけることがこの講座の目的です。複数の語句が集合し、全体でひとつの意味を形成している「熟語」、または「イディオム」と呼ばれる語彙表現の習得は、ひたすら各人の体力と集中力に任せた闇雲な暗記学習にゆだねられがちでした。しかしこの講義では、先行きのみえないそうした学習に終止符を打つべく、熟語表現の中核をなしている「前置詞」をひとつの切り口とすることで、個々の表現をかたまりとしてではなく1つ1つのイメージから納得し、かつ網羅的に整理していきます。具体的には、①前置詞の類型化と文中での機能、②前置詞の意味論的拡張（時空間から比喻へ）、③前置詞を含む表現Ⅰ（句動詞）、④前置詞を含む表現Ⅱ（品詞機能語）を講じていきます。テキスト巻末には、前置詞を含む熟語表現の総覧を掲載しますので、今後も必携し、語彙表現力を磐石のものとしてください。

のついている講座は通常授業を受講していない外部生におすすめの講座です。

■ 参考資料 — VERITAS の英語クラス編成と到達可能な各種英語検定試験のレベル対応

レベル別 最終到達ライン	英検	TOEIC	TOEFL(PBT)	TOEFL(IBT)	国連英検	ケンブリッジ英検
Level 1	3級	320	410	35	D級	KET
Level 2	準2級	420	450	45	C級	PET
Level 3	2級	600	510	65	B級	FCE
Level 4	準1級	790	570	85	—	(CAE)
Level 5	□級	900-990	630-677	110-120	A-特 A級	CAE-CPE

どの試験に挑戦するかは、個人の興味と関心により、初講時に個別に設定することになります。個々の試験の測定できる技能には差異があり、必ずしも相互のレベルが完全に一致するものではありません。

どのレベルのクラスも、基本的に3月終講となるため、自らの選択した試験を、TOEIC・TOEFLでは3月に、各種英検では受講中の1月もしくは終講後の6月に受験することになります。

英語受験コース

<新高3生を対象とする講座です。>

講座名 /期間 /クラス名	レベル	内容紹介
英語総合研究 -厳選英文法と リスニング・自動処理化- 第1ターム5限 英語受験科 A 集中授業-1	+α	<p>本講座は、文法の基礎を習得済みで、実践的な英語力を増強する段階に達した生徒を対象に</p> <p>① 毎日100問(予習50問+宿題50問)の文法パート(『厳選英文法』[テキスト名, 以下同様])</p> <p>② 読解に直結する英語脳の働かせ方の習得(『認識から自動処理へ』)</p> <p>③ 綴り字に対応しない発音規則の解説とディクテーションの訓練(『Methodology for Listening』)</p> <p>をおこないます。文法でとくに今回扱う範囲は、①態、②仮定法、③比較、④名詞・代名詞、⑤否定・倒置です。(難易度の高い講座のため、受講には担当講師との面談が必要です)</p>
長文演習と短文精読 第3ターム5限 英語受験科 A 集中授業-2	+α	<p>本講座は、英語の基礎を確実に習得した上級者を対象に、長文演習と短文精読の2パートで演習をおこないます。長文パートでは、演習の後に講師が解説を行います。</p> <p>長文パートでは、演習の後に講師が解説をおこないます。長文のテーマは、「英語総合研究」の文法パートとリンクしており、より効率的な学習ができるよう配慮されています。長文の分量は比較的短く難解な内容のテキスト『長文精読演習』を用います。</p> <p>短文精読パートでは、英文の一次文献から厳選された短文和訳演習(『短文和訳精読』)を用いて演習を行います。各パートとも、上級者にふさわしいハイ・レベルな講義です。(難易度の高い講座のため、受講には担当講師との面談が必要です。)</p>
英文法徹底解明 -短文暗唱 1日100個- 第1ターム5限 [定員間近] 英語受験科 B 集中授業-1		<p>本講座は、基礎をおおむね完成させたが、いぜん不安が残る中級者を対象に、英文法の解説と、当該分野の短文の暗唱をおこなう講座です。自学自習が困難、あるいはそれによって問題を大きくしてしまうような文法事項につき、一回かぎりの解説を聞くことによって、不明瞭を一挙的・決定的に解消することを目指します。とくに今回扱う範囲は、①比較、②時制・態、③法、④否定、⑤倒置です。いずれも英文法の根幹であり、かつ、曖昧な点を残しやすい分野です。これを機に基本文法書を卒業してください。またテキスト末には、当該分野の基本例文が毎日50個ほど掲載されます。即座に和文から英文に転換できることが要求され、講座終了後、全英作文のテストがおこなわれます(日程は追って発表します)。</p>
長文演習基礎 -長文・語彙・リスニング- 第3ターム5限 [定員間近] 英語受験科 B 集中授業-2		<p>本講座は、文法の基礎を習得済みで、実践的な英語力を増強する段階に達した生徒を対象に、</p> <p>① 長めだが易しい英文と短めだが難しい英文の演習・解説(『長文演習精読初級』[テキスト名, 以下同様])</p> <p>② 語源によって語彙力を倍増させる方法論の解説(『Vocabulary Building』)</p> <p>③ 綴り字に対応しない発音規則の解説とディクテーションの訓練(『Methodology for Listening』)</p> <p>をおこないます。授業は①が中心になり、予習と徹底的な復習を要求します。他方、②と③は、今後の英語学習の気付きとなるでしょう。(受講には担当講師との面談が必要です)</p>

のついている講座は通常授業を受講していない外部生におすすめの講座です。

講座名 /期間 /クラス名	レベル	内容紹介
基礎英文法通解 1 -比較・関係代名詞・関係副詞- 第1ターム5限 [定員間近] 英語受験科C集中授業-1		<p>本講座は、中学英文法と高校英文法の基礎がまだ未定着な初級者を対象に、根幹となる文法事項を詳説し、徹底的な英作文演習によってそれを血肉化する講座です。今回扱う範囲は、①比較、②関係代名詞、③関係副詞です。毎回のテキストには同系列の問題を扱う宿題を付し、圧倒的な演習量で定着に万全を期せるように配慮されています。「漏れなく、飛躍なく」を標榜する当講座を通して、基礎に徹することが応用への近道であること、さらには夏以降の飛躍への鍵であることを実感してもらいたいと思います。</p> <p>□毎回チェックテストを30分間実施します。</p>
基礎英文法通解 2 -関係詞総復習・仮定法・助動詞- 第3ターム5限 [定員間近] 英語受験科C集中授業-2		<p>本講座は、中学英文法と高校英文法の基礎がまだ未定着な初級者を対象に、根幹となる文法事項を詳説し、徹底的な英作文演習によってそれを血肉化する講座です。今回扱う範囲は、①関係詞総復習、②仮定法、③助動詞です。毎回のテキストには同系列の問題を扱う宿題を付し、圧倒的な演習量で定着に万全を期せるように配慮されています。「漏れなく、飛躍なく」を標榜する当講座を通して、基礎に徹することが応用への近道であること、さらには夏以降の飛躍への鍵であることを実感してもらいたいと思います。</p> <p>□毎回チェックテストを30分間実施します。</p>

のついている講座は通常授業を受講していない外部生におすすめの講座です。

